

令和3年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

地域共生 食料栄養 コース・ 食料科 栄養士 コース	外部評価（事業所）			卒業生評価（卒業生）			3ポリシーの点検評価（学生）		
	実施日	3月16日		実施日	3月16日		実施日	3月9日	
	事業所名	特別養護老人ホーム 花ぞ野		卒業年度、就職先	平成30(2018)年度卒 特別養護老人ホーム 花ぞ野 栄養士		学生の学年・人数	2年3名	
DP	4	基本的に栄養士としての知識、技能は持っているが、複数の人と協働するという点ではまだ足りないところがある（先輩・後輩の関係性を築ける状況がない）。	役に立った学修	献立作成、調理技術（切り込みは褒められた）、発注		DP	DPの理解度	4	栄養に関する専門的な知識、技能についてある程度の能力を身につけられたと思う。また、身につけるための努力はできた。レベル4までは達していないと思う。2～3程度。
			不足していると感じた知識・技能	栄養士に必要な知識が十分に身につけていなかった（勉強し直しが必要）。高齢者施設で働いているため、薬と食事の食べ合わせについて。			到達目標としての適切さ	4	
CP	4	前述の通り、先輩・後輩という上下関係が築けるような授業方法があると良い。	学外活動への参加	必要最低限は参加。		CP	CPの理解度	4	栄養士養成課程であることがわかってきたため、授業数が多いことや内容がむずかしいことは理解していた。
			役に立った学外活動	敬老会。現在の職場が高齢者施設のため、コミュニケーションの取り方。			評価方法の適切さ	5	
			学習習慣の必要性と形成	ある程度必要。ある程度身に付いた。試験勉強、レポートなど。			カリキュラム内容・学習方法・学習支援の妥当性	5	
AP	5		最も役に立ったこと	調理実習、給食実習：切り込み・献立作成、発注、衛生管理。		AP	入学前の意識	5	志望動機書作成の際に読んだため、意識はできた。
			教育内容に対する希望	管理栄養士国家試験対策（管理栄養士免許を取りたいと思っている）。			入学前の目標としての適切さ	5	
所感		本施設には、本学から2期生（平成30年度入学）福田陽花、3期生（令和元年度）一ノ瀬歩が勤務している。回答者の宇土さんも本学の卒業生である。評価結果にも記載しているように、職場での上下関係が身につけられるような授業の手法を今後検討する必要がある。	所感	卒業から4年経っているため、現在の業務以外に関する在学中の記憶（ボランティアやイベントへの参加）が明確でなく、その点についてはあまり深く聞き取りができなかった。栄養士業務については、現在の職場よりも短大での実習の方が敷しかったと感じており、在学中の学習が役に立っているようである。在学中は全く検討していなかった管理栄養士免許取得への挑戦を考えており、今後は本コースの国家試験対策にも参加する意向である。		所感	文字量を減らして読みやすくする。3ポリシーを読む機会が2年間の途中でほとんどなかったため、説明の時間をとる。途中経過でどのレベルに達しているのかなどの説明もあると良い。		
地域共生 食料栄養 コース・ 食料科 製菓 コース・ 食料科 製菓 コース	実施日	3月15日・16日		実施日	2月22日		実施日	3月9日	
	事業所名	JR九州ハウステンボスホテル（株）		卒業年度、就職先	令和2(2020)年度木輪（きりん） 製パン製造業		学生の学年・人数	2年2名	
	DP	4.5	経験と共に日々成長している。周囲からの信頼も厚く、自らの行動力で更なる表現力を身に付けて創作での経験を積んで欲しい。課題解決能力、主体的に学ぼうとする姿勢は現在の業務中に感じる人間力、知識、技能は日々の中で学んでいると感じる。他部署とのコミュニケーションはとても優れていて業務遂行をスムーズにこなせている。経験を積んで自らの表現と技量を身に付けてほしい。	役に立った学修	身だしなみやビジネスマナー等で茶道文化やビジネス系科目で学んだ知識が役立った。機械の扱いや製造工程について短大で学んでいたため理解が早かった。食品衛生学で学んだ食品中毒予防の知識、ラッピングの基礎を学んでいたことが生かされている。		DP	DPの理解度	4
不足していると感じた知識・技能				小麦粉の種類（実際の商品名）など食材に関する情報が少なかった。		到達目標としての適切さ		5	HRなどで説明を受け、自己評価することで自分のレベルを知り、到達していないところを強化できる。
CP	4.3	綿密な計画を立てて毎日慎重に業務遂行に取り組んでいる。更なる経験を積んでアイデアを実行に移して欲しい。経験を積んで自信から来る行動力に期待する。前向きな思考力はとても良いので丁寧な指導を心掛けている。様々な業態を知ることとても大切。自らの知識だけでなく、現場によってのやり方の違いを自ら受け入れ多くの知識、技術を成長させていく。	学外活動への参加	積極的に参加した。		CP	CPの理解度	5	カリキュラムの配置や評価方法に関しては、問題がないように思える。今のままで満足している。
			役に立った学外活動	商品開発活動（試食会）：商品開発を行っていたことから取り組みやすく、原価計算などもスムーズに行えるようになっている。商品のプレゼンを行うときも資料作りがスムーズであった。			評価方法の適切さ	5	
			学習習慣の必要性と形成	ある程度必要。ある程度身に付いた。実技試験に向けて空き時間に練習を行い、作業工程を組み立てることを繰り返し行った。国家試験の学習を通してできないところを重点的に復習する習慣を身につけた。			カリキュラム内容・学習方法・学習支援の妥当性	5	
AP	4.3	意欲をもって業務に徹している。 【意欲】【熱意】【旺盛な好奇心】【職として考える】事が今後も大切だと思う。 身の回りの管理、衛生面はとても優秀。 日々安定した取り組み姿勢で業務遂行している。 自ら率先して練習や衛生面への取り組みを行ってほしい。	最も役に立ったこと	製菓実習：業務で使用される機械機器の取り扱い、簡単な焼き菓子の作り方など基本を身につけているので、早々に任されている。		AP	入学前の意識	4.5	入学試験に提出する志願理由書に記入する際にポリシーを確認していた。自分に該当するのは、1、2、5の項目であった
			教育内容に対する希望	特になし。			入学前の目標としての適切さ	5	
所感		ディプロマポリシーに対しては、現場で求められる業務を行うために必要な基礎は修得できていると思う。さらに職場での業務を通じ、これらの能力を高めることを期待されている。カリキュラムポリシーに関しては、製菓製造分野について様々な業態を知ること、現場によってのやり方の違いなどを受け入れる業地を作る場面を設定することが必要に思える。テキスト通りにすすまない現場での対応について、実務家教員の経験を学生に伝える場の設定を検討したい。アドミッションポリシーは、現職の求める人物像をコメントされているが、本コースが求める要素と大差がないように思える。今後は、卒業後の学ぶ姿勢にも言及したポリシーの設定を含め、検討を行いたい。	所感	在学中よりしっかりしている学生で、常に前向きで積極的に活動していた。2年次は新型コロナウイルス感染症の影響で学外活動の制限もあり、思うような活動が出来ない状況にあった。現在は自身で食材の発注、その日の作業工程を管理するなど仕事を任されている部分が大きくなりやりがいを感じているように思える。基礎的な知識や技術力を学ぶ場を提供しているが、彼女のように能力の高い学生に対しては、製菓製パン製造の現場で役立つ実践的な知識（食材）に触れる機会を検討すべきだと感じた。		所感	HRを利用し、1年、2年の新学期にポリシーを学習成果記録ノートに書き写したことで少し馴染みが出てきているようである（見たことがある程度）。今後は学習成果記録ノートに代わる記録の方法や、定期的なチェックを組み込むことを検討していきたい。またDPのレベル段階をセメスターごとにチェックし、学生自身が現在のどのレベルなのか把握できるよう働きかけ、ポリシーを活用していきたい。		

令和3年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

地域共生 国際科 国際コミュニケーション シヨ ン コ ー ス	外部評価（事業所）			卒業生評価（卒業生）			3ポリシーの点検評価（学生）			
	実施日	3月8日		実施日	2月24日		実施日	2月24日		
	事業所名	フォレストヴィラ レストラン トロティネ		卒業年度・就職先	令和2年(2020)度卒 韓国に帰国して就職した卒業生		学生の学年・人数	2年3名		
国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン コ ー ス	DP	5	江口さんは、明るく、誰ともコミュニケーションが取れ、周りにとっても良い影響を与えて 人事評価も非常に高い 。人の話をきちんと聞き、学ぶ意識がとても高い。 韓国語能力も非常に高く 、特にコロナ前は、通訳としても活躍してもらっていた。	役に立った学修	外国語コミュニケーション能力やインターンシップの授業 で身に着けた問題解決能力が役に立った。		DP	DPの理解度	5	特になし。
			不足していると感じた知識・技能	なし。		到達目標としての適切さ		5		
	CP	5	今の授業科目で問題はない。専門知識や技術的なものは、入社してからしっかり教える。短大では、「茶道」「 実践ビジネスマナー 」「 ホスピタリティビジネス 」などで、挨拶を基本とする 人間性を育てる教育 を今まで通り続けていただきたい。誰もから好かれる人柄や身だしなみが非常に大切になる。	学外活動への参加	積極的に参加した。		CP	CPの理解度	5	卒業を迎えた現時点で振り返ってみると、当ポリシー通りにしっかりと学べたことを実感している。
				役に立った学外活動	インターンシップの活動 が特に役に立った。お客様とのトラブルがあった時にインターンシップの活動で身に着けた問題解決方法を韓国の職場で当てはめてみたら役に立った。			評価方法の適切さ	5	
				学習習慣の必要性と形成	とても必要。大変身についた。外国語能力試験を準備しながら日本人の友達に教えてもらったり、韓国語を勉強している友達に教えてあげたりしながら学習習慣を身に着けた。			カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5	
	AP	5	江口さんのように語学に興味があり、コミュニケーション力を高めたい学生さんが集まってこれられるということは、とても良いことだと思う。	最も役に立ったこと	ビジネスマナー、インターンシップの活動		AP	入学前の意識	5	「 Awesome Sasebo! 」がどのような授業が想像しにくい可能性があるかもしれない。高校時にアドミッションポリシーの重要性について指導を受けていたので、明確な目標をもって長崎短期大学を入学することができた。長崎短期大学のホームページで3ポリシーについて理解できるので、有効的だと思う。
教育内容に対する希望				<Awesome sasebo> など学生が自分で何かを作ったりして 自分で問題を解決する能力 を身に付けられる授業が多くなると卒業後も役に立つ。 留学生のサポートは短大が最高 だと思う。		入学前の目標としての適切さ		5		
所感		江口さんの職場での評価は非常に高く、特に彼女のコミュニケーション能力の高さを褒められていた。また、韓国語能力もずば抜けて高く、通訳的な仕事もお願いすることもあるとのこと。短大では、人間性を含むコミュニケーション能力がとても養われていることを褒めておられた。留学、インターンシップなど多くの学外学修を経験することで、本当の意味でのコミュニケーション能力を高めて卒業してくれていることがわかった。今後も引き続き、3ポリシーに従って、学生の教育に努めたい。	所感	チェドンチョルさんは、コロナ禍の中でも仕事は順調で、職場でも能力を認めてくれているとのことだった。卒業後も国際コミュニケーションコースの授業で学んだ事と経験したことを十分に活かして現在の職場で活躍している姿を見て、とてもうれしく思った。引き続き、在学生と卒業生へのサポートに取り組みきたい。		所感	今回の点検を通じて、調査対象である3名の学生は3ポリシーについてしっかりと理解していたことが分かった。また、卒業を迎える現時点において、3名の学生は当3ポリシーに沿った学びを得られたことを認識しており、適切なポリシーと見なしていることを確認することができた。次年度も当ポリシーを大切にしながら、質の良い教育が行えるよう、努力していきたい。			
地域共生 学科 介護福祉 コース ・ 保 育 学 科 介 護 福 祉 専 攻	実施日	3月11日		実施日	3月14日		実施日	3月11日		
	事業所名	社会福祉法人 幼老育成会 介護老人保健施設 サクラ		卒業年度・就職先	令和2年(2020)度卒 小規模多機能ホーム		学生の学年・人数	2年3名		
	DP	5		役に立った学修	介護に必要な技術（排泄・移乗） が役に立った。		DP	DPの理解度	4	
				不足していると感じた知識・技能	実習で見える職場の環境と、 実習だけでは見れない働いてみてわかる事、感じれない事が有る ことが就職してわかり、そこに難しさを感じた。			到達目標としての適切さ	5	
	CP	5	介護実習での現場実習はとても大切だと考えており、今後も協力したいと思います。	学外活動への参加	積極的に参加した。		CP	CPの理解度	3.7	
				役に立った学外活動	ボランティアなどを通して、 実習以外で高齢者と関わる ことで、高齢者との会話に役立った。			評価方法の適切さ	3.7	
				学習習慣の必要性と形成	ある程度必要。大変身に付いた。仕事では、最低限の知識が必要だと感じていたため、短大で介護の知識、制度を授業を通して身につけることができた。			カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4.7	
AP	5		最も役に立ったこと	介護福祉士の国家資格 が取れたこと。利用者向き合う、 コミュニケーション力、介護の技術、制度の理解 が役に立った。		AP	入学前の意識	1		
			教育内容に対する希望	授業では座学が主となる。外部に出かけて、楽しく授業をすることも大切と感じた。 授業のコマが多いので息抜きも必要 だと感じた。			入学前の目標としての適切さ	3		
所感		3ポリシーについては良好な評価をいただいた。サクラ様はコロナ禍に関わらず学生を受け入れ、丁寧な指導をいただいている。今後も施設の期待に応える人材の養成に努めたい。	所感	卒業後、職場での仕事に色々な思いを持っているようである。（転職の時、短大に相談に来校している）短大での専門職としての基礎の学びは役に立っている様である。本人には、家族含め助言をもらえる環境がある。一步一步、自分らしく成長してもらえたらと思う。		所感	評価について納得いかない教科があったと話しており、学生の主観でできていた、できていなかったと判断しているように感じたが、担当教員の基準がそれぞれあり、その指標をなるべく明確化し、学生と共有できていたほうが不満も少ないように思った。入学後のオリエンテーションの際にDPCRAPについての説明を行っているが、ぼんやりとしか覚えておらず、学生自身が理解し、意識しながら学修ができていないように感じた。入学前APを意識（確認）しておらず、理解できていない状態で入学しているようであった。			

令和3年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

外部評価（事業所）		卒業生評価（卒業生）		3ポリシーの点検評価（学生）					
実施日	3月7日	実施日	3月6日	実施日	3月7日				
事業所名	学校法人英知学園 認定こども園 日野幼稚園	卒業年度、就職先	令和元(2019)年度卒 学校法人英知学園 認定こども園 日野幼稚園	学生の学年・人数	1年2名				
保育学科・保育学科保育専攻	DP	5	何よりも問題にぶつかった時に必要な協働する力、解決する力、また保育者として人として成長する為の学び続ける力等、盛り込まれていて良いと思った。	役に立った学修	基本的な保育の知識はもちろんですが、授業の前におこなった 手遊びの発表や季節のピアノ 、人数・年齢に応じた 絵本の選び方、間かせ方は 学んで良かったと感じました。	DP	DPの理解度	4.5	ディプロマポリシーにあるコミュニケーション能力や主体的に学ぶ力は大切なことだと考える。 実践力や専門的知識等の説明を具体的に するより理解しやすくなると思う。
			不足していると感じた知識・技能	週案や月案、要録など園によってことなるもの、書き方や進め方がある程度学んでおきたいと思った。		到達目標としての適切さ	5	【確かな専門的知識】の文章で “体系的な” とあったが、自分にとって 表現の仕方が分かりづらい と感じた。内容は理解できます。	
	CP	5	専門分野の他に基礎教育科目は配置されているのは適当だと思う。	学外活動への参加	積極的に参加した。	CP	CPの理解度	5	保育者としての技術を身に付けるためには、机上での保育の内容や子どもとの関わり方、保護者の理解等の保育的な知識に加え、実習で実際に保育現場で活動することによって、学ぶ科目があることによって質の高い保育者に繋がると考える。そのためカリキュラムポリシーは適当であると思う。
				役に立った学外活動	保育園の運動会ボランティア。全体に目を向けて自分の配置されたところだけではなく臨機応変に対応することの大切さを学んだ。就職してから自分の仕事だけではなく周りにも目を向け自分にできることはないかと探して取り組んだり、より良い方法を探して行うようにしている。		評価方法の適切さ	5	
				学習習慣の必要性と形成	とても必要。ある程度身についた。アルバイトと学業と両立させるために計画を立てて勉強時間を設けるようにしていた。また授業ごとのプリントの管理をしっかりとこなすことで、授業の受けやすさや復習のしやすさにつながり学習を進めることができた。		カリキュラム内容・学修方法・学修実践の妥当性	5	現在はコロナ禍のため、色々と範囲は縮まるが、なるべく体験をしたいと思う。（授業の中で）体験をすることで、あの時はこうだったと体が覚えており活かされるのではないかなと思う。
AP	5	これからは他者とのコミュニケーション、地域との連携が更にもとめられてくると思うので、5つの方針は適当だと思う。	最も役に立ったこと	子どもたち一人ひとりの家庭環境を背景にみた支援の仕方、保護者対応、茶道を通して学んだマナーが役に立った。	AP	入学前の意識	5	入学前、このアドミッションポリシーに共感し、 長崎短期大学で学びたいと思った 。そのためアドミッションポリシーは重要である。保育者になる上で、子どもが好きであることは、すごく大切なことであると思う。子どもを愛おしく思い、探究心を持って常に学び続ける姿勢がなくてはならない。とても大事なことで、良い目標だと思う。	
			教育内容に対する希望	パソコンの基本的な使い方、季節ごとの行事についての話、保護者との文章のやりとりや配布プリント作成など。		入学前の目標としての適切さ	5		
所感	就職後の問題解決能力や協働力に結び付くよう、教養を深めるとともに保育実践を支えるコミュニケーション力を中心とした人間力の養成が必要であると感じた。	所感	在学時から就職して2年目となる卒業生の印象は、大きく変化していた。保育の様子も拝見したが、子どもたちへの目を行き届かせ方、広い視野を持っていることなど保育実践力に大きな成長が見られている。また今回の在学時からの振り返りについても、学業やボランティアの内容が、どのように今につながっているのかを分析し得ていることそのものに大きな成長を感じることができた。	所感	学業の半ばである1年次学生においては、ディプロマポリシーの中にある実践力と専門的知識をある程度具体的に示すことが目標設定として必要であると感じた。体系的という文言をより分かりやすく示してほしいとあった。例えば「保育に関する様々な専門的知識・技能を、全体的な構造の中で理解し修得することができる」カリキュラムポリシーにおいては、保育実践力と知識の関連性をより明確に示していくことが必要であると感じた。また体験を取り入れてほしいとあった。ロールプレイなどの積極的導入などが想定される。アドミッションポリシーに共感したと記述されており、認知度が上がったことキャリア形成上の目標となっていることが嬉しく深い理解を感じた。				
専攻科保育専攻	実施日	3月7日	実施日	3月10日	実施日	3月3日			
	事業所名	学校法人潮見幼稚園 潮見幼稚園	卒業年度、就職先	平成29(2017)年度 社会福祉法人栄照福祉会 幼保連携型認定こども園こもえこども園	学生の学年・人数	1年2名			
	DP	5	インターンシップ生を見ていると、項目によっては達していない部分があると感じるが、それに向かって努力をしている姿があり、成長を期待できる資質や能力を備えていると感じる。	役に立った学修	カリキュラム特論での保育課程の作成や読み取り・理解、家庭援助技術特論での保護者とのやり取りをする上での気持ちの伝え方や受け止め方が役立った。	DP	DPの理解度	4	具体的な目標として理解できるが、修了時にそのようなものかどうかについては自信がない。しかし、それに向かって頑張ればできると考える目標ではある。
				不足していると感じた知識・技能	保育環境構成に対する知識やアイデア。		到達目標としての適切さ	5	
	CP	5	編成や実施の方針、評価について特に問題はないが、カリキュラム・マトリックスやフローチャートを目にすることがないため、その活用方法について周知した方がいいのではと感じる。	学外活動への参加	積極的に参加した。	CP	CPの理解度	4	時間割に従って授業を受けていると意識することはあまりないが、今回詳しく説明を受けたと理解が深まった。また、カリキュラム・マトリックスやカリキュラム・フローチャートは存在自体を知らないため、事前に説明をしてほしい。
役に立った学外活動				させばわんぱくひろばでの劇披露、佐世保文化マンスでの影絵披露、子ども食堂訪問。	評価方法の適切さ		5		
			学習習慣の必要性と形成	とても必要。ある程度身についた。人に伝えるように詳しく調べまわたり、質問に答えられるようにわからないことはすぐに調べ身につけたりなど、するようになった。		カリキュラム内容・学修方法・学修実践の妥当性	5		
AP	5	インターンシップ生を見ていて、専攻科に進学した学生としてAPを満たしていると感じることができると、妥当であると考えている。入学希望者の資質・能力を評価するためには必要な内容であり、それに適した入試方法が実施されていると思う。	最も役に立ったこと	有給インターンシップ。現場を知り自分の経験を踏まえて授業に臨むことで、より学びに対して積極的に理解が深まった。	AP	入学前の意識	1.5	高校から短大に入学する際には、学校からの指導もあり意識したが、専攻科の入学前には願書の作成や面接、小論文対策などに追われて、意識していなかった。専攻科でも入試でこれをもとに評価されているということを知ると、理解しておくべきだと感じた。	
			教育内容に対する希望	環境を通した保育についての学びやSTEM教育についても具体的な学びと実践につながる経験ができると現場ですぐに活かせると思います。		入学前の目標としての適切さ	5		
所感	3つのポリシーの内容についてはすべて適当という評価であったが、CPのカリキュラム・フローチャートやマトリックスについては指摘があったように便覧にも記載があることから、外部からも閲覧できるようにするとともにどのような活用に活用されているのか説明を加える必要がある。	所感	専攻科での2年間の学びが糧となり、ディプロマポリシーによって確認した資質・能力がその後のキャリアを支えている様子が理解できた。特にインターンシップでの疑問を授業で議論し、話し合いながら得られた様々な視点や考え方、方法が視野を広げ、そこで得られたものが卒業後も役に立っているようである。今後の課題としては特に「STEM教育」について保育現場でのような実践が行われているのか情報収集しながら検討していきたいと考えている。	所感	アドミッション・ポリシーについてはおおむね理解が得られており、学生も目標として意識できる内容であることが確認できた。カリキュラム・ポリシーについては入学時のオリエンテーション時に説明はしていたものの、詳しく説明をする必要性を感じた。特に、カリキュラム・マトリックスやフローチャートについては説明不足のところがあつたため、改善したい。アドミッション・ポリシーについては理解できる内容であるという回答であったが、本日の入試はどの程度意識できていないようであった。入試前に確認して受験するように改善していきたい。				